

課題歌「月」

【一 席】

八、 新月の夜にまぎれて人知れずさみしき鬼を胸に棲まはす
三六、 鎌のやうな月冴ゆる夜にひそやかに母はこの世のいのち終へにき
柴田 恭子
鶴見 輝子

【三 席】

二、 ふるさとの暮しの跡は水の底ダム湖に映る寒月凍てり
二六、 草刈りを終えし野に咲く月見草ひとつもと一株残せし人に会いたし
西 春彦
三尾 美智子

【選者推薦】

八、 新月の夜にまぎれて人知れずさみしき鬼を胸に棲まはす
人間という存在の暗部を詠んだ秀作。難しい内容をよく表現し得た。
柴田 恭子

自由歌

【一 席】

八、 朝つゆをやどす木槿の一輪を活けてひとりの膳ととのえる
柴田 恭子

【二 席】

一〇、 帰りたい記憶の家はどこですか義母の背中に声出さず問う
江尻 恵子

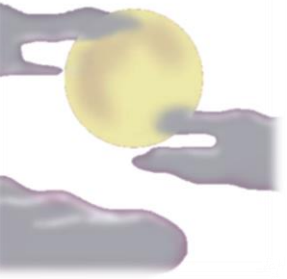
【三 席】

三四、 一日を魚に遊ばれ帰り来る夏の川原に日焼けせし夫は
和田 操

【選者推薦】

七、 不意をつくくことにも我を馴れしめて少女は日毎美しくなる
日毎に成長し続ける少女(孫か)を身近に見て、まぶしいものを見守る作者。
堀 甲枝

四二、 山毛榉ぶなの樹々根元は雪の溶け初めて春の息吹の在り処示せり
山行の実体験がよく働いている自然詠。春の息吹を実感させる光景です。
宇都木 慎一



「飛騨神岡高校」 入 選

上弦の月が下弦に変わっても二人の写真未だ捨てられず
まだ君は知らないだろう夕方の空に浮かんだ真白な月
満月の欠片をポケットにしまい込み四つに分けて家族へ渡す
満月をみると母を思い出すどちらも僕を見守っている
月あかりに照し出された海の波秘めた思いを静かに運ぶ
満月がキラキラ光り笑ってる空で平和を観察中だ

三年 荒木 健裕
三年 波岡 梨乃
三年 和仁 大志
一年 青山 椋
一年 小木曾 都
一年 米澤 太志朗



「吉城高校」 入 選

下校時の僕を見守るお月さま今日の不安を消してくれませ
夜空見て明日への願い言ってみる少しの期待に少しの不安
横顔のすてきな君の横に座し弓手を握る星月夜の下
三日月はどんな月よりきれいだねすつきりさわやかするどいカーブ

二年 松葉 春汰
一年 牛丸 祐菜
一年 林 愛友那
一年 堀 怜音

「高山西高校」 入 選

秋の夜君を照らすよ月明かり一夜かぎりのスポットライト
コンビニで買ったコーヒーふとのぞく砂糖と共にとける月光
青い空左に太陽右に月ふと気が付いた小さな幸せ
月満ちて命も満ちるこの星に海の底では珊瑚の産声
月齢を天気予報と見比べて満月の日待つあと何日か

三年 小笠原 槇保
二年 岩野 芽依
一年 堀之上 さやこ
一年 和田 鈴太
一年 垣内 咲乃

